

10月27日懇談会資料

生活支援分科会
横須賀市肢体不自由児者父母の会
鈴木祥子

介護者急病時の緊急一時保護の現状（Nさんのケース）

平成20年2月に実際に起きた事例です。

母親に手記をお願いしました。

以下は補足です。

家族構成

父親 40代 会社員

母親 40代 主たる介護者

長男 横須賀市立養護学校小学部6年（障害者手帳1級 療育手帳A1）

両親共、他県出身者で近隣に親戚なし

母親の病名と入院期間

網膜はく離

2月26日～3月10日 帰宅後も安静が必要だった。

現在も力仕事は禁止されているため、長男の介助は父親とヘルパーをお願いしている。

親の会「くすくす」

横須賀市立養護学校在校生の保護者の有志が、2007年11月に立ち上げた会です。

県立岩戸高校跡地に県立武山養護学校高等部の移転と、障害者支援センター（重症心身障害児者のための施設を含む）を併設していただくための活動をしています。

親の会『くすくす』の活動の最中、肢体不自由の12歳の息子の預け先について、横須賀市の現実を経験いたしました。

2月末緊急に入院を告げられたが、横須賀市には入所できる場所が無いと分かっていたので、子供のことばかりが心配でした。全て夫に任せざるを得なくなり、児童相談所や学校とも連携を取ってもらいました。初めてなので、せめて受診している県立こども医療センターを希望したいとは伝えました。

3月3日～3月14日

『保護措置』で横須賀市民病院に入院。

病院から登下校となる。スクールバスも利用させてもらい、送迎はヘルパーを利用。入院の子供たちと一緒に病室なので、病院に居る間は柵を上げたベッドの中で過ごしたようです。夜は寝るまで夫が付き添い、土日は一時帰宅したので、夫は休む暇が無く、一番大変だったと思います。

その間、次の入所先として秦野市の神奈川病院を打診される。

3月19日～3月31日

やむを得ず秦野市の国立神奈川病院に入所。

どんな所か全く分からず、入所中様子を見に行くことも出来なかったのが、非常に不安で申し訳ない気持ちで一杯でした。

食欲はかなり落ちたようで、体重も減っていました。

迎えに行くと、顔が見たことが無いほどガサガサになっていて、びっくりしました。

その状況を見ただけで、可哀想になってしまいました。

やはり柵を上げたベッドの中に居ましたので、かなりストレスになっていたと思います。

以前は漠然と『こども医療センター』があるから大丈夫かな・・・とっていました。

実際何度か希望しましたが、全く無理でガッカリしました。

神奈川病院は車で一時間半ほど、他も決して近いと言える場所ではありません。長い時間車に乗るだけで負担になる子も沢山いると思いますし、連れて行く事が困難な場合もあり、緊急の時はなおさらです。せめて市内であれば、子も親も少しは負担が減ると思います。

息子は障害者手帳1級・療育手帳A1ですが、四肢這いで勝手に移動してしまうので、人手が足りない現場では、ベッドから出してもらうのは難しい状況だと実感しました。それもストレスにつながり、体調を崩したり精神的にも不安定になったりします。

市で児童相談所を持っていながら、他市に頼らなければならない現状。なにより安心して預けるためにも、地域があればと切に願います。